

オリンピック



広報おおまがり No.195

昭和39年9月10日

大曲市から東京オリンピック・パラリンピックに出場する選手の紹介が掲載された。オリンピックには自転車競技に伊藤富士夫選手が選ばれた。日本初参加の第2回東京パラリンピックには、秋田県から唯一、大曲市の高野竜治選手が背泳いで出場した。

大曲市役所行政刊行物



広報おおまがり号外

昭和39年9月19日

東京オリンピック聖火通過の号外。オリンピック聖火の大曲市内通過図や聖火リレーの編成、トーチの構造の解説などが掲載されている。トーチで聖火を燃やす成分は二酸化マンガ、木粉、マグネシウムを調合したもので、これによりオレンジ色の明るい焰と目にしめない白い煙が出るよう工夫されていた。

大曲市役所行政刊行物



広報おおまがり No.200

昭和39年11月25日

第2回パラリンピックに出場した高野竜治選手が、初の国際大会出場感想を寄稿している。感謝の意を綴るとともに、日本における障がい者の社会復帰の難しさや障がい者スポーツの未成熟について憂慮している。日本のパラリンピアン53名のうち自立生活者は3名のみで、高野選手もその一人だった。こうした先人の経験やその後の努力が、現在の障がい者スポーツの発展と活躍につながっている。

大曲市役所行政刊行物



第18回オリンピック競技大会公式報告書 昭和41年

オリンピック東京大会組織委員会が編集した刊行物。東京オリンピックの全競技・全選手の一覧や、オリンピック実施の経過がわかる記録など、東京1964オリンピックのすべてが詰まった公式記録。当時、国会議員だった栗林三郎氏の蔵書の1冊。

栗林文庫



東京 1964 オリンピック 聖火リレー 昭和39年

大曲市広報写真



東京 1964 オリンピック 聖火台点灯 昭和39年

大曲市広報写真

大仙の オリンピック パラリンピアン

いとう ふじお

伊藤 富士夫

(自転車競技・大曲地域出身)

秋田県立大曲農業高等学校を卒業。法政大学在学中に第18回東京オリンピック日本代表に選ばれ、4Km 団体追い抜きメンバーとして出場、11位。

もてぎ まさる

茂木 優

(レスリング競技・協和地域出身)

秋田市立秋田商業高等学校から国士館大学進学。秋田商業高等学校教員時代、第21回モントリオールオリンピック日本代表。フリースタイル 82Kg 級 8位入賞。2007(平成19)年、秋田県民栄誉賞受賞。

さいとう こうじ

齊藤 幸司

(ハンドボール競技・西仙北地域出身)

秋田県立大曲高等学校から日本体育大学へ進学。その後、日本ハンドボール界をリードしてきた大崎電機に所属し活躍。第22回モスクワオリンピック日本代表に選ばれるも、日本選手団不参加のため、晴れ舞台に立つことはできなかった。

かたやま たかみつ

片山 貴光

(レスリング競技・協和地域出身)

秋田市立秋田商業高等学校から日本体育大学進学。卒業後は自衛隊体育学校所属の自衛官として活躍。第26回アトランタオリンピック、グレコローマンスタイル 74Kg 級 8位入賞、翌第27回シドニーオリンピック、グレコローマンスタイル 76Kg 級 17位。

さかきだ まさのぶ

榊田 真庸

(ボート競技・大曲地域出身)

秋田県立大曲高等学校から東京経済大学へ進学。在学中に第21回モントリオールオリンピック日本代表となりエイト 11位。



いとう ともひろ

伊藤 友広

(陸上競技・南外地域出身)

秋田県立大曲高等学校から法政大学へ進学。第28回アテネオリンピックの1600mリレー決勝、第3走者で出場。2位でアンカーにバトンを渡したが、残念ながらメダルには届かなかった。4位入賞。

ささき さとる

佐々木 悟

(陸上競技・南外地域出身)

秋田県立秋田工業高等学校から大東文化大学へ進学。現役時代は旭化成陸上部に所属。第31回リオデジャネイロオリンピック、男子マラソンで日本人選手トップの16位。

ささき しょうた つばさ

佐々木 将汰・翼

(カヌー競技・協和地域出身)

兄弟ともに、秋田県立西仙北高等学校卒業後、万六建設勤務。第31回リオデジャネイロオリンピック、スラローム男子カナディアンペアに出場。前半は持ち味を発揮したが、後半の難しいコース設定に苦しみ12位。

すずき ゆうか

鈴木 優花

(陸上競技・中仙地域出身)

秋田県立大曲高等学校から大東文化大学進学。現在、第一生命グループ所属。第33回パリオリンピック、女子マラソンで2時間24分02秒の自己ベストで日本人選手トップの6位入賞。

たかの りゅうじ

高野 竜治

(水泳競技・大曲地域出身)

秋田県第1号のパラリンピアン。大曲高校3年の時に病気で両下肢の機能を失う。時計の技術を身につけ、時計店を営んだ。高校時代には水泳部に入っており、病後も水泳を続け、日本が初めて参加する東京パラリンピックの代表に選ばれた。出場種目は25m背泳。



日本代表カヌー/スラローム競技選手団記念皿 平成28年

リオデジャネイロオリンピック出場記念の日本代表のお皿。佐々木将汰・翼選手のほか、同大会で銅メダルを取った羽根田卓也選手の名前も見える。

協和公民館寄託資料



応援スティックバルーン 令和6年8月

鈴木優花選手のパブリックビューイングの際に使用した金とピンクのバルーン。

中仙公民館提供